



1. 高等学校重点目標

- ・これまでの実践を踏まえた、ICTの日常的な活用による「生徒主体の学び」と「ICT」との最適な組み合わせを実現
- ・自他の権利を尊重し、デジタル技術を適切に扱う責任を生徒が自覚できるよう指導を充実

詳細は、

徳島県GIGAスクール構想ホームページをご覧ください。

<https://gigaschool.tokushima-ec.ed.jp/>



11月の「とくしまGIGA推進月間」に、各学校のホームページに掲載いただいた「1人1台端末」を活用した実践例をまとめました。取組の参考として御活用ください。

徳島県GIGAスクール構想 ポータルサイト

徳島ICT活用モデル推進チームホームページ

https://gigaschool.tokushima-ec.ed.jp/page_20240910004839

2. ICT活用モデルA・M・R段階の好事例紹介

A段階の好事例

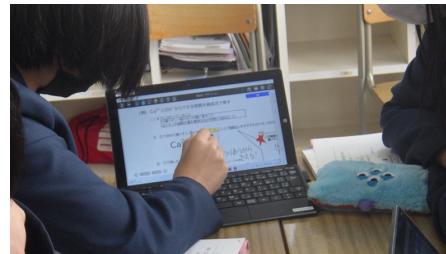


高校3年生の地理探究の授業において、教師がPowerPointで作成した「西アジアの国々を巡る双六」を用いて、生徒がゲーム形式で自主的に学習を進めた。班ごとに双六を進めて、止まったマスに関連する国の地理的特徴、歴史、文化、経済などを調べ、情報を整理した。調査結果や進行状況等をGoogleスプレッドシートの共同編集を用いて電子黒板にリアルタイムで表示した。

ICTを活用した双六を通じて探究的な学びが見られた。

(富岡西高等学校)

M段階の好事例



高校1年生の化学基礎の授業において、MetaMoji ClassRoomを用いて問題を班別で共同編集しながら解いた。特に、理解度の高い生徒がMetaMoji ClassRoomの画面を使って詳しい解説を行い、他の生徒がその説明を聞きながら学びを深める場面が見られた。

この取組により、生徒同士が積極的に意見を交わしながら、用語の知識や習熟度をさらに高めることができた。学び合いが促進されて、ICTを活用した協働学習の効果がより一層実感できた。

(阿波西高等学校)

R段階の好事例



高校1年生の総合的な探究の時間において、板野町の魅力をテーマに、動画や写真で現地の様子を記録、MetaMoji ClassRoomの付箋機能で課題や魅力を色分けし、整理・分析を通じてフィールドワークを振り返った。グループで課題の改善策や魅力を広める方法を話し合い、Word、PowerPoint、Canvaを使い成果物を作成した。

地域の魅力や課題等を多角的に捉え、課題解決のアイデアを共有し、地域貢献を意識した学びが見られた。

(板野高等学校)



生徒が学習場面において利活用が考えられる例

- 情報モラル教育の一環として、生成AIが生成する誤りを含む出力を教材に、その性質や限界に気付く。
 - グループの考えをまとめる、アイディアを出す活動の途中段階で、一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用する。
 - 教科書等の内容を生徒それぞれの進度に合わせて理解するために、解説やイメージを出し、より内容に対する深い理解を生み出す助けとする。
- ※生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成AIを利活用することが目的であってはならない。
- ※事前に保護者の理解を十分に得た上で、生徒が使用できる生成AIを使って教師の適切な指導監督の下で生徒に利活用させることが必要である。

教職員による校務での利活用例

- 授業での発問に対する回答のシミュレーション相手として活用する。
- 校内研修の資料のたたき台を作成する。
- 研修や講演会の録画を読み込ませ、要約・議事録案を作成する。
- 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する。

利活用の際のポイント

①安全性を考慮した適正利用

教育委員会の方針に基づき利活用すべきである。

②情報セキュリティの確保

教育委員会が示す教育情報セキュリティポリシーや実施手順、及びそれに基づく教育情報セキュリティ管理者の指示等を遵守する必要がある。

③個人情報やプライバシー、著作権の保護

最新の「教育データの利活用に係る留意事項」等も参照しながら、個人情報保護法等の関係法令等を遵守し、個人情報の取扱いに関して必要かつ適切な措置を取る必要がある。

④公平性の確保

ハルシネーションやバイアス等の生成AIの特徴も意識した上で、出力された内容を取り入れるかどうかは教職員が判断しなくてはならない。

⑤透明性の確保、関係者への説明責任

学校現場で利活用する際に必要となる情報を教育委員会に共有するなど、教育委員会と一体となって適切な生成AIの利活用を進めるべきである。

※ハルシネーション：誤った出力、バイアス：情報の偏り

3. 生成AIの活用の好事例紹介

生徒が学習活動で利活用



高校1年生の総合的な探究の時間において、仮説やアイデアを立てた上で、生成AIの利用に関する注意点（個人情報の入力禁止、利用制限や情報の信頼性、誤った使い方に注意）を学習し、生成AIを活用して情報の修正・改善を行った。さらに、MetaMoji ClassRoomを活用して、生徒同士や教師と意見や考えを共有することで、多様な視点を取り入れた。その後、発表を通じて探究の成果をクラス全体で共有して、得られたフィードバックを元に修正や振り返りを行い、より深い学びを得ることができた。

（脇町高等学校）

安全性を考慮した適正利用を実践

生徒が学習活動で利活用



高校1年生の理数数学Ⅰの授業において、生成AIの回答にハルシネーションが含まれる可能性があることを学んだ後、実際に問題を生成AIに問い合わせ、提示された多様な解法をグループで共有した。さらに、生成された解法やその過程を批判的に検討し、根拠に基づいて判断し、振り返ることで、数学的な思考プロセスを一層深めることができた。

生成AIを支援ツールとして効果的に活用することで、議論がより一層活性化され、生徒の思考力や問題解決能力を高めるための工夫が施されていた。

（池田高等学校）

安全性を考慮した適正利用を実践

教職員が校務で利活用

【校務に關すること】

- ・保護者へ配布する書類の文章の推敲
- ・HPに投稿する文章の推敲

【授業に關すること】

- ・情報収集
- ・教材作成
- ・確認テスト問題のたたき台を作成
- ・感想やアンケートを集約

心掛けていること

- ・生成AIは、一度のプロンプトで完璧な回答を得るのが難しいため、やり取りを繰り返して目的に近い内容を作成する。
- ・役割や条件を明確に指定し、抽象的な表現を避けて具体的な指示を記述する。

（城南高等学校）

【安全性を考慮した適正利用とは】

- ・生成AIサービスの提供者が定める最新の利用規約（約款や年齢制限）を確認・遵守
- ・保護者の同意の必要性
- ・情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実

リーディングDXスクール生成AIパイロット校

文部科学省は、教育活動や校務において生成AIの活用に取り組む生成AIパイロット校を指定し、「効果的な教育実践の創出」を行っています。

https://leadingdxschool.mext.go.jp/r05/ai_school/



教育データの利活用に係る留意事項

教育データを利活用するに当たって安全・安心を確保するために、教育委員会・学校が留意すべき事項を整理したもの。

https://www.mext.go.jp/content/20240328-mxt_syoto01-000028144_1.pdf

